

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年8月9日

**【四半期会計期間】** 第72期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

**【会社名】** 株式会社 ナカノフードー建設

**【英訳名】** NAKANO CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 浅井 晶

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区九段北四丁目2番28号

**【電話番号】** 03-3265-4661(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 前澤 孝

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区九段北四丁目2番28号

**【電話番号】** 03-3265-4661(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 前澤 孝

**【縦覧に供する場所】** 株式会社ナカノフードー建設 名古屋支社  
(名古屋市中区丸の内三丁目20番3号)  
株式会社ナカノフードー建設 大阪支社  
(大阪市西区阿波座二丁目4番23号)  
株式会社ナカノフードー建設 東関東支店  
(千葉市中央区富士見二丁目15番1号)  
株式会社ナカノフードー建設 北関東支店  
(さいたま市浦和区高砂三丁目5番7号)  
株式会社ナカノフードー建設 横浜支店  
(横浜市中区本町二丁目10番)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第1四半期 連結累計期間	第72期 第1四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高 (百万円)	25,532	28,574	117,254
経常利益 (百万円)	383	265	1,755
四半期(当期)純利益 (百万円)	110	96	653
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	150	307	1,958
純資産額 (百万円)	9,457	11,769	11,565
総資産額 (百万円)	63,945	73,075	71,927
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.20	2.81	19.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	14.2	15.3	15.3

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。  
2 売上高には、消費税等は含まれていない。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策への期待感や日銀の金融緩和の導入などにより円安基調、株価上昇傾向にあり、また、企業の設備投資意欲の改善、消費者マインドの好転など、明るい兆しが出てきている。

建設市場においては、民間設備投資は下げ止まりつつあり、公共投資は底堅い動きとなっているが、労働者不足や労務・資材費の上昇など、依然厳しい状況で推移した。

このような状況のなか、当社グループは、国内では営業・工事が一体となり工事利益の改善に努めるとともに、海外では東南アジアへ積極的に経営資源を投入し、収益基盤の拡大を図った。

当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなった。

売上高は、建設事業283億13百万円(前年同四半期比15.1%増)に不動産事業他2億61百万円(前年同四半期比72.0%減)をあわせ、285億74百万円(前年同四半期比11.9%増)となった。

損益面においては、営業利益は1億43百万円(前年同四半期比63.3%減)、経常利益は2億65百万円(前年同四半期比30.7%減)、四半期純利益は96百万円(前年同四半期比12.2%減)となった。

(注) 「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示している。

セグメントの業績は次のとおりである。(セグメント間の内部売上高等を含めて記載している。)

#### 建設事業

##### 日本

当社グループの建設事業の日本における受注高は、163億99百万円(前年同四半期比10.3%増)となった。

売上高は、156億57百万円(前年同四半期比20.3%増)となり、一部不採算工事があったものの、工事採算の改善などにより、営業損失は2億30百万円(前年同四半期 営業損失2億36百万円)となった。

#### 東南アジア

当社グループの建設事業の東南アジアにおける受注高は、109億25百万円(前年同四半期比33.2%減)となった。

売上高は、126億61百万円(前年同四半期比9.3%増)となり、工事利益率低下に伴う売上総利益の減少などにより、営業利益は2億71百万円(前年同四半期比34.1%減)となった。

#### 不動産事業

##### 日本

賃貸事業を中心とする不動産事業の日本における売上高は、2億53百万円(前年同四半期比70.6%減)となり、営業利益は1億18百万円(前年同四半期比35.1%減)となった。

##### 北米

賃貸事業を営む不動産事業の北米については、前連結会計年度において、保有資産の見直しを行い、賃貸不動産を売却したことにより、営業損失は15百万円(前年同四半期 営業利益34百万円)となった。

#### その他の事業

その他の事業については、売上高は7百万円(前年同四半期比1.4%減)となり、営業損失は0百万円(前年同四半期 営業利益0百万円)となった。

### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産の部は、前連結会計年度末に比べ11億47百万円増加し、730億75百万円となった。これは、「受取手形・完成工事未収入金等」が20億90百万円減少したが、「現金預金」が16億26百万円及び「未成工事支出金」が10億76百万円それぞれ増加したことなどによるものである。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ9億43百万円増加し、613億5百万円となった。これは、「借入金」が14億40百万円増加したことなどによるものである。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ2億4百万円増加し、117億69百万円となった。これは、剰余金の配当1億3百万円の支払い並びに四半期純利益96百万円の計上及び円安による為替換算調整勘定の影響などによるものである。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はない。また、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更も行っていない。

### (4) 研究開発活動

#### 建設事業

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4百万円であった。

なお、連結子会社においては、研究開発活動は特段行っていない。

#### 不動産事業及びその他の事業

研究開発活動は特段行っていない。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	154,792,300
計	154,792,300

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	34,498,097	34,498,097	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は500株である。
計	34,498,097	34,498,097		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		34,498,097		5,061		1,400

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないので、直前の基準日である平成25年3月31日の株主名簿により記載している。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 116,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,191,000	68,382	
単元未満株式	普通株式 191,097		1単元(500株)未満の株式
発行済株式総数	34,498,097		
総株主の議決権		68,382	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ1,500株(議決権3個)及び150株含まれている。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式435株が含まれている。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ナカノフード建設	東京都千代田区 九段北四丁目2番28号	116,000		116,000	0.33
計		116,000		116,000	0.33

2 【役員の状況】

該当事項はない。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、和泉監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	24,203	25,829
受取手形・完成工事未収入金等	27,896 <sub>2</sub>	25,805 <sub>2</sub>
未成工事支出金	1,083	2,160
その他のたな卸資産	254	253
その他	1,676	2,061
貸倒引当金	232	145
<b>流動資産合計</b>	<b>54,881</b>	<b>55,964</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物・構築物(純額)	3,261	3,221
土地	10,048	10,048
その他(純額)	257	272
<b>有形固定資産合計</b>	<b>13,567</b>	<b>13,541</b>
無形固定資産	140	185
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,669	2,724
その他	729	718
貸倒引当金	61	59
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,337</b>	<b>3,383</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>17,045</b>	<b>17,110</b>
<b>資産合計</b>	<b>71,927</b>	<b>73,075</b>



	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	2 43,390	43,285
短期借入金	6,450	7,915
未払法人税等	772	104
未成工事受入金	4,337	4,371
引当金	526	557
その他	1,201	1,308
流動負債合計	56,677	57,542
固定負債		
長期借入金	1,525	1,500
繰延税金負債	390	447
退職給付引当金	1,012	1,037
その他	756	777
固定負債合計	3,684	3,763
負債合計	60,362	61,305
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,061	5,061
資本剰余金	1,400	1,400
利益剰余金	5,511	5,505
自己株式	28	28
株主資本合計	11,944	11,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	336	372
為替換算調整勘定	1,292	1,123
その他の包括利益累計額合計	956	750
少数株主持分	576	582
純資産合計	11,565	11,769
負債純資産合計	71,927	73,075

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	25,532	28,574
売上原価	24,070	27,353
売上総利益	1,462	1,221
販売費及び一般管理費	1,070	1,077
営業利益	391	143
営業外収益		
受取利息	19	52
受取配当金	18	18
為替差益	-	97
その他	17	12
営業外収益合計	55	180
営業外費用		
支払利息	37	55
その他	25	2
営業外費用合計	63	58
経常利益	383	265
特別利益		
投資有価証券売却益	-	37
その他	-	2
特別利益合計	-	39
特別損失		
訴訟関連損失	-	20
その他	85	0
特別損失合計	85	20
税金等調整前四半期純利益	298	285
法人税、住民税及び事業税	134	136
法人税等調整額	18	36
法人税等合計	152	172
少数株主損益調整前四半期純利益	145	112
少数株主利益	35	15
四半期純利益	110	96

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	145	112
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	36
為替換算調整勘定	286	159
その他の包括利益合計	296	195
四半期包括利益	150	307
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	159	302
少数株主に係る四半期包括利益	9	5

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
	(外貨)	(円貨)	(外貨)	(円貨)
工事履行保証	61,849千\$	4,687百万円	61,849千\$	4,813百万円
	11,220千M\$	341	15,120千M\$	468
	119,264千B	381	184,970千B	584
従業員持家ローン		0		0
手付金保証				72
計		5,411		5,939

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。

なお、当第1四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	31百万円	52百万円
支払手形	2,766	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)

及び負ののれんの償却額は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	80百万円	64百万円
負ののれん償却額	14	

(株主資本等関係)

.前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	103	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はない。

.当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	103	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他の事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額
	建設事業			不動産事業						
	日本	東南 アジア	計	日本	北米	計				
売上高										
外部顧客への売上高	13,019	11,579	24,598	859	66	925	7	25,532		25,532
セグメント間の 内部売上高又は振替高		4	4	4		4		8	8	
計	13,019	11,584	24,603	863	66	930	7	25,541	8	25,532
セグメント利益 又は損失( ) (注)3	236	411	174	182	34	216	0	391		391

(注)1 「その他の事業」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業である。

2 セグメント間取引消去によるものである。

3 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他の事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額
	建設事業			不動産事業						
	日本	東南 アジア	計	日本	北米	計				
売上高										
外部顧客への売上高	15,657	12,655	28,313	253		253	7	28,574		28,574
セグメント間の 内部売上高又は振替高		5	5					5	5	
計	15,657	12,661	28,318	253		253	7	28,580	5	28,574
セグメント利益 又は損失( ) (注)3	230	271	40	118	15	102	0	143		143

(注)1 「その他の事業」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業である。

2 セグメント間取引消去によるものである。

3 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益 (円)	3.20	2.81
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (百万円)	110	96
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	110	96
普通株式の期中平均株式数 (千株)	34,385	34,381

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2 【その他】

該当事項はない。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 9日

株式会社 ナカノフードー建設  
取締役会 御中

和泉監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 川尻慶夫 印

業務執行社員 公認会計士 森 英之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナカノフードー建設の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナカノフードー建設及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。